

波上の放課後 (2025年版)

作・木村繚真

【登場人物】女性6名・男性2名

括弧内は劇中劇②の役名

○高校2年生

紺野ハルカ (エミコ)

アカリ

マユ (市民3)

藤堂ヒロシ (太一・市民1)

○高校1年生

ミキ／姉

楠田／父 (市民2)

ナナコ／母 (志保・母さん)

○その他

植村先生

アナウンス・車掌の声

○人数に余裕があれば、姉・父・母は必ずしも役を兼ねる必要はありません。

幕があく。

舞台には立方体(キヤスター付き)が点在している。

場所は視聴覚室。新入生歓迎公演の芝居を行っている最中。

1年生たちと植村先生は立方体に座って見ている。

【劇中劇①】

東京へと旅立つ合唱部の仲間を駅で見送るため、4人が駆け込んでくる。

ハルカ あっ、いた！

藤堂 どこ。

ハルカ ほら！

マユ もう電車来るよ。

アカリ エリカーっ！

正面に手を振る4人。

ハルカ 気を付けてねー！

マユ 今度東京遊びに行くからー！

アカリ またみんなで歌おうね、合唱しようね！

マユ ほら、いいなよ。
藤堂 や、山本さんっ、好きだーっ！

合唱曲『明日へ』の前奏IN。それに被さってアナウンス。

アナウンス 4番線、列車が参ります。黄色い線の内側までお下がりください。

4人で歌う。

1番が終わると同時に、発車のベルが鳴り響く。

手を振る4人。音楽・照明FO、観劇者たち、拍手。

拍手は続けたまま転換（立方体を移動させる）。

藤堂が「よーお！」の掛け声と共にひとときわ大きく手を叩くと、明。

拍手は一斉にやめる。

舞台はとある小教室。本日は演劇部の初会合。

藤堂 と、いうわけで、俺が演劇部部長の藤堂だ。飛べない鳥じゃないぞー、ドードー！

ハルカ あんたも絶滅しな！

藤堂 ひどっ！

マユ でも最近コストリカのジャングルで撮影されたって。

藤堂 マジで？

アカリ 良かったじゃん、パスポートは？

藤堂 俺に行けと！？

ハルカ お土産よろしくー。

藤堂 誰がコストリカまで行くかよ。

植村 はいはい、1年生を置いてけぼりにしない。

ハルカ ねえねえ、歓迎公演でやった劇、おもしろかったでしょ？

藤堂 自分で言うなよ。

ハルカ 歌めっちゃ練習したんだよ？ 一人音痴な奴がいてさあ、

藤堂 いやもういいよ、次、はい、自己紹介。

藤堂、着席。ハルカ、前に立つ。

ハルカ（咳払い）改めまして、副部長やっています、紺野ハルカです！

藤堂 よっ！

マユ シッ。

ハルカ まだ先の話ですが、高校演劇には大会があります。うちの部は去年県大会止まりだったので、今年をもっと上を目指して、みんなと頑張っていきたいです。よろしくお願
いします！

拍手。

藤堂 植村先生。

植村 ん？

藤堂 今年も台本、よろしくお願いします。

植村 あ、

ハルカ 6月の新人公演が終わるまでには、題材決めようと思ってます。

植村 ごめん。あの、今年はちょっと、書けそうにない。

2年生 えっ。

植村 義理のお父さんがね、ちょっと、介護が必要になってきてて。時間が取れないの。

間。

ハルカ ちょうどいいんじゃない？

マユ どういうこと？

ハルカ うちの毎年顧問創作でさ、なんか頼りすぎてる気がしてた。

アカリ それは確かにある。

マユ じゃあ既成台本？

ハルカ いや、書こうよ。

藤堂 誰が。

ハルカ はいっ！ 私書く！

藤堂 大丈夫かお前。

ハルカ 当然じゃん！ 私が行かせてあげるよ全国！ とびつきり面白くって深くって、高校演劇史に残る超名作を書くんだから！

音楽。

ハルカ、藤堂を引っ張って立たせ、ボクシングの真似。

ハルカ シュツ、シュシュツ、シュツ！ ズバーン！

藤堂をノックアウト。額の汗を拭って正面に向け、

ハルカ 汗と！

アカリとマユ、声を上げて泣きながら抱き合う。

ハルカ、それを見て感動の拍手。顔だけ正面に向け、

ハルカ 涙と……！

アカリとマユとハルカの3人、肩を組む。キラキラした笑顔で夕陽を指さす。

ハルカ 友情と！

藤堂、ハルカの手を取ってひざまずき、手の甲にキス。

ハルカ、乙女な顔を正面に向け、

ハルカ ラブロマンス！（すぐに藤堂の手を払って、）邪魔っ。

ハルカ、急に胸を押さえて床に倒れ込む。マユ、駆け寄って抱える。
その両脇でアカリと藤堂は天に祈りを捧げる。
ハルカ、正面に顔を向け、

ハルカ 時々シリアス！

藤堂、歌い始める（讚美歌のような何か）。

ほかの2年生もあわせて一緒に歌いながら去っていく。

ハルカ、去り際にキメ顔。1年生たちは啞然。

植村 大丈夫。来年の今頃、あなたたちもあんなんよ。

顔を見合わせる1年生。

植村 さ、今日の部活はこれでおしまい。明日から基礎練習開始よ。

4つの立方体を横1列に並べ、礼をして去っていく1年生たち。
ハルカが戻ってきて、

ハルカ ハーツ、初々しいわー！

植村 紺野さん、

ハルカ 先生、私、先生に負けなくらい良い本書きますから！ 期待してください！

植村 紺野さん、

ハルカ わかっています。もちろん勝ち負けじゃありません。伝えられる作品、観る人の心を動かせる作品を目指します。

植村 紺野さん、

ハルカ でもやるからには絶対国立劇場に、

植村 ねえ、

植村先生、ハルカの両肩に手を置き、

植村 お薬、ちゃんと飲んでる？

じつと先生の目を見返すハルカ、ゆっくりと視線を落とす。

同時に照明、ハルカのみを照らす。先生は去っていく。

ハルカ、放心したように、ぎこちない動きでポケットから薬を取り出す。

しかし飲まず、立方体からブランケットを出して包まり、床で丸まって眠りにつく。

溶暗。

暗闇から声。

姉 ハルカー。遅刻するよー。

溶明。舞台はハルカの部屋。
部活のシーンから一転、薄暗く、重たい雰囲気漂っている。
すすり泣くハルカ。姉、入る。

姉 起きてる？

姉、そばに座り、ハルカの肩に手を添える。

姉 今日は休む？

ハルカ、顔を横に振る。

姉 無理しなくていいよ。

ハルカ ……行く。

ハルカ、ゆっくりと上体を起こし、涙を拭う。

姉 私もそろそろ出るから、一緒に行こう。

姉、ブランケットをたたみ、立方体にしまふ。そしてハルカの通学鞆を取り出し、立方体の脇に置く。

姉 支度して。

姉、去る。

ハルカ、そのまま動かない。雨の音F I、同時に光がハルカのみを照らす。正面を向いて見上げ、過去を思い出すハルカ、表情が歪む。やがてゆっくりと立ち上がる。

【回想】

とある家のチャイムを押すことを躊躇っているハルカ。
意を決してボタンを押す。

母がやってきて、インターフォンの画面に話しかける。

母 どちら様ですか。

ハルカ ……。

母 ハルカ？

母、扉を開ける。

ハルカ ……久しぶり。

母 ……何しに来たの、わざわざ東京まで。

ハルカ ……。

母 用がないなら帰って。

ハルカ ……。

母 じゃあね。

ハルカ 待って。

母 ……。

ハルカ 私、高校生になったよ。成績いいし、演劇部にも入ったよ。

母 そう。

ハルカ お姉ちゃんなんてもう22歳で、春から社会人だよ、すごくない？ もうさ、

母 あんた…、変わってないね。

ハルカ え？

母、扉を閉めて去る。

立ち尽くすハルカ。

ハルカ お母さん。

照明戻り、ハルカの部屋。

姉、入る。

姉 行ける？

姉、ハルカの服の乱れを直す。

姉 行こう。

ハルカ、鞆を持つ。

姉、ハルカの手を引いて歩く。駅ホームの雑踏。

アナウンス 4番線、列車が参ります。黄色い線の内側までお下がりください。

ハルカ お姉ちゃん。

姉 ん？

ハルカ あの人、ちょっと笑ってた。お姉ちゃんは春から社会人だよって、私が言ったとき。

姉 ……気のせいだよ。

ハルカ、姉の手をほどく。

姉 ……電車、乗ろう。

姉、電車内・座席（1列になった立方体）に座る。

ハルカは動かない。

発車のベルが鳴り響く。

姉、半身をホームに出してハルカに手を伸ばす。

姉 ハルカ。

袖からホイッスルの音、車掌の声。

車掌 お客さまー！ 危ないですよー！

姉 ハルカ！

ハルカ、姉の手を掴み、乗る。

動き出す列車。座席に座る2人。

ハルカ、姉の肩に顔を寄せ、声を堪えて泣く。

姉、ハルカの目を周囲から隠すように身を寄せ、頭を撫でる。

姉 帰ろっか。ね。…ごめんね。

溶暗。

暗闇の中、2年生たちが発声練習をしながら入ってくる。

明。

アカリ ねえ、

藤堂 ん？

アカリ 今日もハルカいなかった？

藤堂 ああ、教室では見てないな。

マユ どうしたんだろうね。

アカリ 返信も来ないし。

藤堂 まあ、ちょっと体調くずしてるだけって先生が言ってんだからさ、そのうち来るだろう。

アカリ 冷たいヤツ。

藤堂 紺野はお前らに心配させたくないんじゃないじゃねーの？

アカリ んなこと分かってるわよ。

藤堂 じゃあ詮索すんなよ。

マユ 気になることがあるんだよ。

藤堂 なんだよ。

アカリ (マユと顔を見合わせ) ハルカ、今年に入ってから変じゃなかった？

藤堂 アイツは前から変だろ。

アカリ そうじゃなくてさ、

マユ 送別会するとき、過呼吸になったじゃない？

藤堂 ああ。先輩の卒業が寂しいって、めっちゃ泣いてたな。

マユ 私たちってあんまり3年生と接点なかったのに、すごい寂しがってて。

藤堂 それはひとそれぞれなんじゃね？

マユ でもハルカって結構ドライなイメージがあっけさ。

アカリ そう、あんまり感情出さないっていうか。

藤堂 まあ、確かに副部長になるって言ったときは意外だったけど。

アカリ そうだよ、歓迎公演の稽古のときなんてさ、先輩と言いつつ合ってたじゃん。私が演出なんですから、口出さないでくださいって。

マユ あれヤバかったね。

アカリ 大会の台本書くって言ったのもそうだけど、全体的にキャラ変わったと思わない？
藤堂 んー、でもいま関係あるか？ それ。元気だったわけじゃん。
アカリ ……。
藤堂 気になるなら、もう一回先生に訊いてみれば？

藤堂、舞台袖に声をかける。

藤堂 おーい、準備できたかー？ 発声するぞー！
1年生 はーい！

1年生たちが出てくる。藤堂とマユは発声の指導を始める。
アカリ、正面を見つめ、

アカリ ハルカ。

全員ストップ・無音・照明薄暗く。
舞台は教室。植村先生が入る。

植村 はーい、授業やるよー。日直ー。

全員、無機質に席へと移動。ハルカも登校してきて席に向かう。
号令。

藤堂 気をつけ、礼。
全員 お願いします。

ハルカ、立方体から教科書を取り出し、開く。

植村 はい、じゃあ教科書43ページ、前回の続きから。読んでもらおうかな。今日は5月24日だから……、

藤堂 先生、524番はいませんよー。

植村 はいじゃあ藤堂くん。

藤堂 なんで!?

笑う生徒たち。ハルカだけは俯いている。

とめどもなく溢れ出てくる涙を拭う。教科書を顔に当て、声なく泣く。
照明、次第にハルカのみを照らしていき、溶暗。
暗闇の中、声。

アカリ 新人公演シーン4！ ミキちゃん、よく見て参考にしてね！ よーい、

アカリが手をうつと溶明。

【劇中劇②・新人公演の稽古】

立方体に座ったハルカ（エミコ86歳）、藤堂（太一17歳）、ナナコ（志保17歳）。
高校生の2人は、空襲を体験したエミコから話を聞いている。

エミコ 夜中にサイレンが鳴り響いた。わたしは恐ろしくて震えていたよ。だけどその時に空襲はなくて、もう大丈夫だと思って母さんの腕の中で安心して眠った。だけどその2時間後に、B29はこの町を、火の海に変えたんだ。

太一 この町が、火の海に？

エミコ 昼間のような明るさ、（立ちあがり）焼夷弾が火を吹いて、雨のように降ってきた。

志保 雨のように、降ってきた（立ちあがる）。

エミコ 空中で花火のように開いて、

太一 黒い塊が落ちてきた（立ちあがる）。

エミコ 周りの木々が折れんばかりに、

志保 炎を煽る風が吹いた。

エミコ・太一 町に轟く警報音。

エミコ・志保 胸を劈く爆撃音。

エミコ 横一列に並んだアレが、

3人 赤く、光りながら飛んできた。

【劇中劇内での回想】

けたたましい警報音と爆音。

市民1 空襲だー！！

人々の叫び声。

エミコ おかあさん！

母さん エミコ、

市民1 奴らだ、やっぱりあのビラは本当だったんだ！（駆け去る）

爆音。

母さん 大丈夫だよ。

エミコ おとうさん、おとうさんは？

母さん 大丈夫。

市民2、息を切らして入る。

市民2 何してるの！ はやく逃げないと！

母さん どこへいけば？

市民2 防空壕を掘らされたでしょう？ はやく逃げないと焼き殺される！（駆け去る）

エミコ おかあさん、

母さん 離れないで（市民2の後を追う2人）。

爆音。2人の前に市民1が駆け出て倒れこむ。

エミコ きゃあ！

市民1 ハア、ハア……あんたら、どこ行くんだ。

母さん 防空壕に、

市民1 よせ。

母さん だけどさっきの人が、

市民1 あそこへいったら蒸し焼きにされる！

母さん そんな……。

市民1 それより川、川へ逃げろ！（母さんの手を引き、駆け出す）

母さん あっ（繋いだ手がほどける）、

エミコ おかあさん！

母さん エミコ！

爆音。爆風で後ろへ倒れるエミコ。

エミコ ……痛い。

市民1と母さんの姿はない。

市民3がやってきて、エミコに駆け寄る。

市民3 お嬢ちゃん。どっか痛い？ここにいたら駄目よ？

エミコ おかあさん……、

市民3 ほら早く。

爆音。

エミコ おかあさんっ！

市民3 こっちへ！

エミコ いやだ！

ふらつきながらも懸命に駆けだすエミコ。

市民3 どこ行くの！（抱き止め）

エミコ 川におかあさんがいる！だから、

激しい地響き。

市民3 行ったらだめよ。川にいたら爆撃目標にされるから。

爆音。

市民3 行こう！

エミコ いや、かあさん、おかあさん！！

照明・CO。

アカリが手を叩くと照明CI。

袖からほかの部員たちが出てくる。ハルカ、泣いている。

ミキ 先輩(ティッシュを渡す)。

ハルカ ありがとう(涙を拭いて、近くの立方体に捨てる)。

藤堂 お前やっぱすげーわ。

アカリ どう？ 参考になった？

ミキ なんか、すごすぎて引きました。

アカリ 大丈夫。恥を捨てれば一皮むける。

藤堂 こいつは恥知らずだからなあ。

マユ (藤堂の襟首を引っ張って放り投げる)

アカリ ハルカは？ アドバイスとかあれば。

ハルカ ……自分の中にもね、役と気持ちが重なる部分ってあると思うの。それを引き出して、爆発させるといいかも。恥ずかしい気持ちも、一緒に吹き飛ばす。

ミキ 気持ちが、重なる……。

アカリ ちょっと考える時間にしようか。

ミキ すみません。

アカリ じゃあほかにやれるシーンはーっと……、

マユとハルカ、輪から少し離れて、

マユ ハルカ。

ハルカ ん？

マユ 相変わらず、見惚れた。

ハルカ やめてよ。

マユ なんて。すごい良かったよ。

ハルカ ただの、自己陶醉だから。

マユ 自己陶醉。

ハルカ (頷き) 自己愛の塊……、最悪だよ。

マユ ほんとに大丈夫？

ハルカ なにが？

マユ 体調。

ハルカ うん、大丈夫。ほんとに元気だよ。迷惑かけてごめんね。

マユ ううん。ハルカがこうやって見てくれて助かる。心強いよ。

ハルカ 大会の台本は、ちゃんと書くから。心配しないで。

マユ 無理しないでね。

ハルカ じゃあ、明日しようか、台本会議。

マユ 明日？

ハルカ 善は急げだ。

マユ でも、

アカリ よーし！ 次、シーン6！

軽快な音楽IN・照明薄明り。全員なんとなくコミカルに踊りだす。
ハルカ以外は散りばめられた立方体に座る。ハルカが手を打つと音楽CO。
明。舞台は小教室。台本会議。

ハルカ と、いうことでー、第1回台本会議ー！ いえーい！ はい、拍手。

1年生は拍手する。

2年生は顔を見合わせて首をかしげる。

ハルカ 皆さんご存知の通り、9月には大会があります。そこで、今年は顧問創作ではなく、しっかりと高校生が創作してやろうというわけです！ そもそも高校演劇でなぜ顧問が台本を書き、なぜ演出まで行うのか、それらは本当に高校生の望み通りなのか、ほかの作品と同列に評価されるべきなのだろうかなど常々疑問を抱いておりましてワタクシ紺野ハルカ。ここでいっちょ一石を投じたいと思うわけでしてー、

アカリ あの一！

ハルカ なんですし。

アカリ 本題に入ろう。ちょっと、いろいろ怖い。

ハルカ だよ。ハイじゃあ端折ってー、今年の題材、みんな何がーい？

楠田 はい（挙手）。

ハルカ お、いいねクッスンこと楠田くん！

楠田 僕は、原発について考えたいです。原発というか、エネルギーについてです。

ハルカ なんです？

楠田 原子力や火力以外にも、日本には安全でクリーンな発電の選択肢があるのに、利権とか絡んで、積極的に開発してこなかったっていうか、その、地球環境に優しくとか言ってるけども、結局それは建前で、協定とか、SDGsとか、そういう国際的な枠組みが作られたから流れに乗るしかなくなって、仕方なくやってみせてるだけなんじゃないかって、感じてます、僕は。

ハルカ それで？

楠田 え？

ハルカ 何をどう訴えたいの？

楠田 それは……、

ハルカ 原発の危うさを描かなきゃいけない。生きてる以上みんな当事者。でも、実感として、その危険をどれだけ分かってる？ 遠くにいる私たちが、一体どれだけ正確な作品を作れるんだらうね。中途半端にやったら、人を傷つけるだけだよ。

藤堂 待て。議論はあとにしよう。

ハルカ 大事なことじゃん。

藤堂 先に進まないし、1年生が発言しにくくなるだろ。まずは希望を出し合おう。

ハルカ じゃあ、ほかに意見ある人。

1年生、俯いている。

マユ 私は海外の子どもと、日本の子どもの違いについて考えてる。10人に1人は学校に通えてなくて、1億6000万人の子どもたちが働いてるんだって。貝を売ったり、ゴミを漁ったり、私たちよりずっと小さな子たちが、生きるために生きてる。女の子は結婚させられて、大人のいいなり。私たちの生活がどれだけ贅沢か、私たちに本当に必要なことはなんなのか、問題提起したい。

ハルカ 何が必要なの？

マユ 謙虚さ。

アカリ さっきの、クツスの言ってたことにも繋がるね。世の中便利になったけど、自然は壊すし人も殺すし、格差は広がっていく。欲があるから問題だらけ。

藤堂 ゴミを拾って歩く子どもを広告とかで見るとか、あんなことになるなら子ども作るなって思わない？

マユ それはそうだけど、根本的に変えていかなきゃいけない。私たちが当たり前だと思ってる、例えば蛇口から水が出たり、綺麗な道路を歩けたり、電気が使えること、学校で勉強できること、働く場所があることとか、司法制度が機能すること、そういう基本的な環境が整わないと、貧しさや人権意識は変わっていかない。だからまずは井戸を作ったりとか、そんな技術を伝えるために、ほかの国からの援助が必要で、

ハルカ それは、じゃあ、いまの私たちにできることってなんだろう。

マユ 募金とか、使わなくなったものを寄付するとかしかできないけどさ、もっと直接支援できるように、私は将来NGOで働きたい。

アカリ そういえば、去年キャンプ行ってたよね。

ミキ キャンプ？

アカリ なんだっけ。

マユ ワークキャンプ。海外でボランティアするの。

ナナコ かつこいい。

アカリ 国際派だわー。

藤堂 なんか意識高いなお前ら。

ハルカ じゃあ、一旦次。ほかに、ミキちゃんとナナコ、なにかある？

ミキ 私は、家族ものがいいなって、思いました。

アカリ あー。

ミキ なんか、家族っていると面倒くさいけど、いないとこないで心細いっていうか。

マユ うち、父親が単身赴任してるんですよ。

マユ そうなんだ。

ミキ 今、いろいろ怖い事件も多いじゃないですか。だから、そう思うことがちよくちよくあって。

藤堂 なるほどなー。結構書きやすいんじゃないか？

ハルカ ナナコは？

ナナコ 私は、S、F？

2年生 出たー。

ナナコ え、ごめんなさい。

マユ ちなみにどういうSF？

ナナコ えっと、ETとか、AIとか。

藤堂 SFETAI！

アカリ あんたET役ね。

藤堂 トモダチ、イパーイ。

人差し指をアカリに向ける藤堂。
アカリ、掴んでひねり上げる。

ハルカ ハイほかに、何か希望ある人いる？

藤堂 はい！ 俺もミキティの案に賛成です。

アカリ あんたの思う家族ものとは？

藤堂 俺も自分ちのことなだけどさ、うちのじいちゃん超かっこいいんだよ。

マユ どんなところが？

藤堂 昔近所でお金に困ってる人がいたらしくて、その人の田んぼを買い取ってあげたんだって。

アカリ たんぼを？

藤堂 すごいだろ？ なんでそんなお金があったかっていうと、じいちゃん1人で会社立ち上げて、家の隣の仕事場で1人で作業して1人で会社まわしてたんだって。

マユ すごいね。

藤堂 でっかい家建ててさ、雨漏りがあるうもんなら裁判よ裁判。頑固一徹最強なんだよ。
アカリ それやるとしてもアンタがおじいちゃん役とは決まってるからね。

藤堂、楠田を睨む。

マユ やめなさい（藤堂の襟首を引っ張る）

ハルカ クッスン負けるな、睨みつけろ！

楠田 は、はい！

楠田、がんばって藤堂を睨む。

藤堂 シヤアー！！

楠田 ひいひい。

マユ やめろ。

マユに放り投げられる藤堂、床に転がる。

ハルカ じゃあ、こんなもんなかな？

アカリ どう？ どれか書けそうな感じする？

ハルカ とりあえず多数決でどれかに絞ってさ、できそうならエチュードやろうよ。

マユ うん、それいいかも。

ハルカ じゃあ整理すると、エネルギー、日本と海外の子ども、家族、SF。

藤堂 その4つの中から1つだけ手を挙げよう。いいか？ 目を瞑って。

アカリ あんたも瞑りなさいよ？

藤堂 はい。

ハルカ はい、じゃあエネルギーについてがいいと思う人。

楠田が手を挙げる。

ハルカ 子どもについて。

マユとアカリが手を挙げる。

ハルカ 家族について

藤堂 はいっ！

ミキと藤堂が手を挙げる。

ハルカ S F。

ナナコが手を挙げる。

ハルカ はい、いいよ。

藤堂 さあさあ、どうですか。

ハルカ エネルギー1、子ども2、家族2、S F 1。

藤堂 おー。

マユ ん？ 一人足りない。

アカリ 誰。

ハルカ あ、私だ。

藤堂 おい。

アカリ どうする？

マユ 子どもと家族って繋がられそうじゃない？

ハルカ ああそうだね。

アカリ エネルギー問題もさ、人間の未来に関わることだから、家族にとっても大事だよね。

全員 (頷く)

マユ S Fもさ、なんとか入れこもつか。

アカリ そだね。

藤堂 じゃあ題材は、

ハルカ 家族ってことで、OK？

藤堂 拍手！

全員、拍手。

ハルカ エチュードやるよー！

全員 はい！

全員立ち上がり、照明薄明かり。同時にリズムのよい音楽I N。各自、定位置へ移動。

ハルカは舞台前方・端の辺りに置かれた立方体に正面を向いて座る。

藤堂と楠田は各々立方体の上に立つ。その他の人は立方体に座って2人を見る。

【エチュード①】

楠田 おじいちゃん！

明。発せられた言葉を聴きつつ、ハルカはパソコン画面に向かって台本を書く動作。

藤堂 どうしたあ！

楠田 ツバメさん、落っこちてた。

藤堂 よおし、おじいちゃんが巢に戻してやろう。

楠田 おじいちゃん！

藤堂 どうした？

楠田 太郎くんにビンタされた。

藤堂 よおし、おじいちゃんが鍛えてやろう。

楠田 鍛える？

藤堂 ほら、ワンツ、ワンツ！（シャドウボクシング）

楠田 ワンツ、ワンツ。

藤堂 もっと腰を入れて！

楠田 ワンツ、ワンツ！

藤堂 いいぞ！ ワンツ、ワンツ！

楠田 じいちゃん！

藤堂 どうした。

楠田 振られた。

藤堂 なに？

楠田 じいちゃんが告白しろって言うからしたのに！ 最低だ！（背を向ける）

藤堂 ヒロシ。

楠田 ……。

藤堂 アヤコちゃんには、見る目が無かったんだ。

楠田 トモミちゃんだよ。

藤堂 とにかく、お前は立派な男だ。だから泣くな。

楠田 立派じゃないし。

藤堂 立派さ。弱ったツバメを気遣う優しさを持つてる。太郎くんにビンタされてる友だちを助けてあげた。勇気を出して、好きな女性に告白できた。立派じゃないか。

楠田 ……じいちゃん。

藤堂 ん？

楠田 じいちゃんが、父ちゃんだったら良かったな。

藤堂 ヒロシは、自慢の孫だよ。

2人、微笑み合う。

ミキ、立方体に立ち、楠田の背後から言葉をかける。

ミキ お父さんっ！

楠田、振り向く。

藤堂、立方体に座る。ここでアカリも立方体の上に立つ。

【エチュード②】

楠田 ん？

ミキ なんでもそんなにクサいの！

楠田 汗か？（腋のにおいをかぐ）

ミキ 知らないけど近づかないで！（ぶいっと楠田に背を向け、）お母さん！

アカリ どうしたの。

ミキ 洗濯物、お父さんのと一緒にしないで！

アカリ あらあら。

ミキ なに。

アカリ お年頃ねえ。

ミキ だってなんか汚いんだもん。お風呂のお湯には垢だらけ、トイレのドアは開けっ放

し。玄関に行くだけで靴の臭いがプンプン。オエー。

アカリ お父さんも、そういうお年頃なのよ。

ミキ 加齢臭？

アカリ それもあるし、仕事で疲れてるのよ。

ミキ そうかもしれないけど、たまに早く帰ってきたかと思えば、だらだらしてばっかり。

アカリ もっと構って欲しいんだ？

ミキ はあ？ 違う、そんなわけないじゃん！（ぶいっとアカリに背を向ける）

楠田 おーい。なあ、ほら、面白い映画やってるぞ。

ミキ それ、前もやってた。

楠田 あ、やっぱり？ どっかで観たことあるなーって思ったんだよなあ。でも、面白いよ

な（ミキに微笑みかける）。

すぐにテレビに向き直り、映画に夢中になる楠田。

その様子を見つめるミキ。

ミキ （溜息）……お父さんにしては、見る目あるじゃん。

ミキと楠田、立方体に腰を下ろし、一緒に映画を楽しむ。

その様子を見つめて微笑むアカリ。

マユ、立方体の上に立つ。裸足。アカリはスマホをいじり始める。

【エチュード③】

ハルカ きょうだいは何人ですか？

アカリ ひとりっ子！

マユ 8人です。

ハルカ お仕事は？

アカリ 私？ してるわけないじゃん。

マユ ペットボトルとか、リサイクルできるゴミを集めて、買ってもらってます。

ハルカ どうして？

アカリ だってアカリまだ中学生だもん！

マユ お父さんはいないし、お母さんは病気で死にました。おばあちゃんは兄弟の面倒を見るので精一杯なので、私やお兄ちゃんが働きます。

ハルカ 学校はどう？

アカリ ねむい、だるい、めんどい。

マユ 行きたい。前は、友だちとサッカーしたり、勉強も、楽しかった。

ハルカ 将来の夢は？

アカリ お嫁さん！

マユ (照れくさそうに) 学校の、先生。

ハルカ いつ結婚したい？

アカリ えー、若いうちがいいな、23歳とか？

マユ お姉ちゃんは14歳で結婚しました。私も、たぶんそうなります。

アカリ 14？ は？ やばくない？

マユ (下を向いてしまう)

アカリ 好きでもない奴と結婚させられるの？ ありえなくない？ 学校にも行ってないと

か。なにそれ、何なの？ ねえ、おかしい。絶対おかしいよそれ。

マユ ……(悲しい苦笑)。

アカリ なんて、笑ってんのよ……。

マユ、ごみを拾い始める。アカリ、その様子を苦しそうに見る。

スマホをしまい、腕まくりをして、一緒にごみを拾い始める。

その姿を見て微笑むマユ。懸命にゴミ拾いをするアカリ。

そのまま2人、座る。疲れたが、爽やかな笑顔で微笑みを交わす。

ナナコ、立方体の上に立つ。

【エチュード？】

ナナコ ハルカ。

ハルカ、声に驚き立ちあがる。

ナナコ ばいばい。

ハルカ ……待って、待ってよ。

ハルカ、立方体の上に立つ。

ハルカ どこ行くの？ なんで？ あたし、悪い子だった？ ……もう、好き嫌いしない。

わがまま言わない！ 歯だって磨くから！ だから……、行かないでえ……！

照明、ハルカのみを照らす。

ハルカ 嫌だあ！

暗闇から、

ナナコ あんたはここにいなさい！！

怯え、縮こまるハルカ。

ハルカ なんでよ……、私が何したっていうの……。なんなの、なんなんだよ……！！

間。ハルカ、ゆらゆらと立方体に座り直し、激烈に台本を書き進めていく。

溶暗。

アカリが手を打つと同時に明。

アカリ はーい、集まってー。

全員、アカリのもとへ集まる。

アカリ 新人公演、初めての通し稽古どうだった？

楠田 疲れました。

藤堂 内容が内容だしな。

ハルカ いい機会だよ。文化週間かなんか知らないけど、校長に頼まれなかったら戦時中の話はやらないでしょうちら。

藤堂 まあな。

ハルカ おかげで全校生徒に観てもらえるし！

マユ それはラッキーだね。

ミキ 緊張しますー。

ハルカ 大丈夫大丈夫ー！

アカリ ミキちゃんよりあんたが心配だよ。

ハルカ なんて。

アカリ 目の下クマできてるし、テンションおかしいよ。

ハルカ どころがー！

マユ 大会の台本さ、うちらに回してくれてもいいからね？

ハルカ もう骨組みはできてるから！ 安心して。大船に乗ったつもりでいていいから。

全国、いや世界一獲っちゃう勢いだよマジで！ 泣けて笑えて考えさせられる、秀逸な作品よ！ 小説も出そうかなって思ってたさ、出版社にも連絡したのよ。そしたら

「まず完成してから応募して下さい」だって！ バカよねー？ 先見の明がないっていうか、あれは大成しないね。成功するにはリスクを恐れたらいけないでしょ。あと、

アカリ ハイハイ！ 終了。ダメ出しするから。いい？

ハルカ あ、じゃあ私からアカリにダメ出し。

アカリ はあ？

ハルカ 表面的なダメ出しが多過ぎる。相手が1年生とはいええ、もっと内面から作っていく方法を示していかなきや。見え方とか聞こえ方だけ整えたって中身が、感情がからっぽなのは見透かされちゃう。私たちは偽物じゃなくて本物にならなきや。作品と私たちの日常は地続きなの。手掛りは普段の生活の中にたくさんあるから、それと役の人生を繋げて、心から気付けるようなことを言っていけないと駄目。もうこの際だからみんなに言うね。楠田くん、

楠田 はい。

ハルカ 声が小さい滑舌悪い、特にイ段が壊滅的。

楠田 すみません……、

ハルカ 普段からね、気をつけよう。

楠田 はい。

ハルカ 声出してきな。

楠田 あ、はい。

楠田、戸惑いながら駆け去る。

ハルカ ナナコ。

ナナコ はい。

ハルカ 演技くさい。やってます感がすごい。普段あんまりアクションする？ 客席が遠い

からある程度大きく見せることは必要だけど、ミュージカルじゃないんだからさ。緊張するのは分かるけど、顔も体も動きが硬いから、なおさら取って付けた感が増して悪目立ちしてる。もっと力抜いたほうがいい。ってかそのへんさ、演出としてはどうなの？ 特に掛け合いのシーンなんてさ、すごいテンポ悪いし観てて不自然。ってか、ミキちゃん。

ミキ はい。

ハルカ こないだ私がやったの見てたよね？

ミキ はい……。

ハルカ 全ツ然変わってない！

マユ ハルカ、ちょっと言い方考えなよ。

ハルカ マユは我が強すぎ。役を自分に寄せちゃってる感じ。型にハマてる。だからいつつも同じような言い方だったり、作品の役の感情が伝わってこない。ペラペラ。

藤堂 おい、お前どうしたんだよ。おかしいぞ。

ハルカ あんただっておかしいじゃん。

藤堂 なにが。

ハルカ 相手のセリフ聴いてる？ 自分ひとりで作ってるようにしか見えないんだけど。ぜんぶ予定調和なの。稽古に慣れちゃったのか知らないけど、ただ自分のセリフを音として発してるだけ。もっと相手の言葉を聴いて、リアルな

アカリ もういい！

ハルカ ……。

アカリ 帰って。

ハルカ (笑い、) なに、どしたの。

アカリ 本気で言ってるの？

ハルカ 何が。え？ 意味わかんない。

アカリ 私には私のやり方があるの。それを無茶苦茶にしないで。

ハルカ は？ あっそ。じゃ馴れ合いでやってれば。

マユ ハルカ、今日はもう帰って休んだほうが、

やめてくんない？ お節介だよ。私は今人生で1番気分がいいの。なんでもできるって感じで、やる気に満ち溢れてるの。だからカンボジアに行って、子どもたちに会ってこようと思ってる。

マユ え？

ハルカ パスポートも申請したし、お金もなんとかかなりそうだから。あ、支援団体のスポンサーにもなったよ。月50000円なら安いもんだって。

ハルカ、マユの両手を握って、

ハルカ マユ、本当にありがとう。私ようやく目が覚めたんだよ。これまで私は自分大好き人間だった。でもこれからは世のため人のため、世界に貢献することにした。だから私、ハーバード大学受験する！

アカリ いい加減にしてよ！！ もう、帰ってよ！！

アカリ、ハルカに掴みかかる。抵抗するハルカ。ミキは混乱してその場から去る。
植村先生がやってきて、

植村 ちょっと、なに、どうしたの。

藤堂 先生止めてください。

植村 ねえほら、2人とも、やめなさいって。

離される2人。

ハルカ ハイハイ！ わかったわかった！ もうバカばかしい。帰る帰る。

ハルカ、去る。泣くアカリ。

溶暗。

明。舞台はハルカの家。ハルカ、紙袋を持って帰宅。

ハルカ ただいまー！

父、入る。

父 おう、お帰り。

ハルカ お姉ちゃんは？

父 帰ってるよ。

ハルカ ふうん。

父 何買ってきたんだ？

ハルカ 英語の参考書とか、トラベルガイド、その他もろもろ。見る？

父 最近、調子どうだ。

ハルカ いいに決まってるじゃない、最高だよ。超気分いい。部活以外は。マジ、超最悪だった。なんかキレられたし。意味わかんないっつ。マジクソ。なんも分かってない。

父 みんなに何か言ったのか？

ハルカ は？ 別に言っていないし。普通のことだし。

父 ……。

ハルカ なに。なんなのその顔！

父 いや、別に、
ハルカ お父さんまで私のこと邪魔にするわけ？ ねえ。ねえ！ 聞いてんの？！
父 邪魔になんてしてないだろ。
ハルカ してんじゃん！ してんだろが！ なんなの？ マジで意味わかんないから！

ハルカ、立方体の蓋を開け、中に紙袋を叩きつける。ドゴン！ と大きな音。
自分の部屋に行こうと歩き出す。

父 ハルカ、
ハルカ うっさい！

向かいから姉がやって来る。立ち止まるハルカ。

姉 おかえり。

ハルカ ……。

姉 着替えてきたら？ お茶でも飲もう。

微笑む姉。ハルカとすれ違ったところで、

ハルカ むかつく。

姉 ……。

ハルカ いつも余裕そうで、なんでも分かってますみたいな顔して、いい子ぶって……。
なに、お母さんに気に入られてるからって、そんなに偉いわけ？

姉 ハルカ、

ハルカ やめてよ、なだめるような声。キモいよ。

姉 あんたのせいじゃないから。

ハルカ なにそれ。ほんと私のせいって言いたいんでしょ？！

姉 違う。

ハルカ 私が自己愛の塊で、臆病で、傲慢だから、こんなだからお母さんは、あの人は、
逃げてったんでしょ……！？

父 そうじゃない。

ハルカ じゃあなに！

父 お前ら2人を、守ろうとしたんだよ。

ハルカ はあ？

姉 お父さん、

父 お母さんも、お前と同じだったんだ。

ハルカ ……。

父 双極性障害。そう、診断された。

間。

父 遺伝することを、お母さんは心配してた。小さい頃から、お前はお母さんに似てた。
ハルカ 待ってよ。別に、お母さんは普通だったじゃん……？

父 ……トヨコさん、覚えてるか。

ハルカ あの人が、なに。

父 お母さんは、調子悪いとき入院してたんだ。そのあいだ、トヨコさんがお前の面倒をみてくれた。できるだけ、お前に心配させたくなかったんだ。

ハルカ でも、じゃあ、なんでいなくなったの？

姉 私に手を上げるのが、とめられなかったから。

ハルカ ……は？

姉 ふいに、カッとなって叩くの。あんたはまだ小っちゃかったから……。でも、私のせいだよ。ずっと、ぶたれても黙ってたから。

父 違う。お前らは悪くない。俺が、子育てに無関心すぎたんだ。お母さんの心細さに、気づいてやれなかった。家族と離れる決断を、せざるを得なくなる前に、最初から、支え合えばよかった。ぜんぶ俺のせいだ。だから、自分を責めなくていい。ハルカ、ごめん……！

父、土下座をする。

ハルカ、崩れ落ちる。姉、ブランケットを出し、ハルカを包み、抱きしめる。

間。照明、ハルカのみを照らす。姉と父は去っていく。横たわるハルカ。鼻をすすする音、小さく震える体、溢れてくる涙、言葉にならない嗚咽。

ハルカ ごめんなさい……、ごめん……私のぶんまで……！ お姉ちゃん……。ごめんなさい、お母さん、恨んでごめんなさい……。ごめん……。ごめんね、みんな……。！

ハルカ、よろよろと這い、立方体の中からカッターを取り出す。

右足を伸ばし、カッターの刃を出し、右太ももをゆっくりと、深く3回切る。

母と姉、演劇部のみんなの痛みを知るための、ハルカなりのすべだった。

溶暗。転換。

明。舞台はとある教室。

植村先生のみ立ち、生徒たちは座っている。ハルカの姿はない。

植村 今日集まってもらったのは、紺野さんの状態について、みんなに説明するためです。

いまは学校に来られる状態じゃないそうで、私が代わりに伝えることになりました。

紺野さんは、双極性障害といって、気分の浮き沈みが大きくなる、状態に、なっています。

活発なときと、憂鬱なときとが、周期的にやってくるそうです。通院して、お薬

を飲んだりしながら、紺野さんは自分自身と闘っています。みんなに酷いことをしてし

まったと、自分を責めています。みんな、嫌な思いをしたと思う。けど、できれば、責

めないで欲しい。

マユ 先生は、知ってたんですか？

植村 うん……。

アカリ なにそれ……。

植村 紺野さんは、また元気になって帰ってくるから。そのとき、紺野さんがびっくりする
ような、素敵な作品をつくらう。観てもらおう。

全員 ……。

植村 ……、藤堂くん。

植村、あとを藤堂に任せ、去る。
マユは携帯電話を操作し始める。

藤堂 言ってくれりゃあな。

アカリ ほんつと、むかつく。

ミキ 先輩、

藤堂 ん？

ミキ 私、発声練習いってきます。

ミキ、駆け去る。

ナナコ 私も。

楠田 僕も、行ってきます。

ナナコ、楠田、駆け去る。

藤堂、マユ、アカリ、三者三様の受け止め方。

マユ 「がんばれ。元気だして。薬に頼るな。いつ治る？」

アカリ なに。

マユ 言っちゃいけない言葉。

アカリ ……。

マユ アカリさ、新人公演終わったら、ハルカんち行ってきて。

アカリ は？

マユ 連絡しとくから。別に喋んなくていいよ。

アカリ 何しに行くの。

マユ 貫いに。

アカリ 何を。

マユ、携帯電話をしまつて立ち、

マユ さ、稽古稽古！ 藤堂も行くよ。

マユ、去る。藤堂、落ち込んだ様子で去る。

アカリ ……むかつく。

アカリ、正面を向いて立ち上がり、遠くを見つめる。照明、アカリだけを照らす。
舞台はハルカの家。

アカリはチャイムを押すことを躊躇っている。
意を決してボタンを押す。照明・薄明り。姉、出てきて扉を開ける。

アカリ あ、こんばんは。
姉 アカリちゃん？
アカリ はい、はじめまして。
姉 ハルカの姉です。わざわざありがとね。
アカリ いえ。
姉 どうぞ。
アカリ お邪魔します。
姉 ハルカー。アカリちゃん来たよー。

返事はない。

姉 呼んでくるね。
アカリ あ、ぜんぜん無理しなくても、
姉 部屋行ってみる？
アカリ え、
姉 おいで。

アカリと姉、ハルカの部屋まで歩く。その間にハルカが入り、立方体に座る。
姉とアカリ、部屋のドアの前に着く。

姉 ハルカ。アカリちゃん、きてくれたよ。開けるよ。

ドアを開ける動作。ハルカは俯いている。

姉 ゆっくりして行って。

姉、去る。
間。

アカリ 思ったより、部屋キレイじゃん。
ハルカ ……うん。
アカリ ……USB、もらいに来たよ。
ハルカ ……ぐちゃぐちゃだよ？ 頭、おかしいから。
アカリ なに言ってるの。
ハルカ せっかく、みんなで話し合っってエチュードやったのに、ぜんぜんうまく書けなかった…。きつとみんなガツカリする。
アカリ 新人公演、うまくいったよ。ミキちゃんも、クッスンもナナコンも、あんたに言われたこと、改善しようと頑張ったんだよ。それで変わったんだよ。
ハルカ ごめん。

アカリ 謝んなくていい。うちらも、2年生もさ、あんたに言われたこと悔しかった。むかついた。もっと言い方があるだろうって。…でも、あんたは間違っってない。なんにも、間違っったことは言っってないんだよ。だから、

アカリ、手を出す。

アカリ あんたの台本、私たちが仕上げる。

間。

ハルカ、ポケットからUSBを取り出し、立ち上がって、アカリに渡す。

ハルカ なくさないで。

アカリ 誰がなくすか。

2人、ふっと笑う。

ハルカ アカリがウチにいるの、なんか不思議。

アカリ ここまで来るのに迷子になったよ。

ハルカ ……ずっと、寂しかった。広くて、深くて暗い海に、独りぼっちで取り残されたのは、みんなに会えたから。居場所ができたから。でも、それさえ私は大事にできなかった。小さなことにもイラついて、気持ちが膨れて爆発する。私の中の波が、周りの人を傷つける。

アカリ ……完璧なんてない。みんな、ちよつとずつ、波の形が違うだけ。…ハルカなら、乗りこなせるよ。

ハルカ ……がんばる。

アカリ ちゃんと飲むのよ、葉。

ハルカ うん。

アカリ これ、ちゃんと仕上げるから。観に来てよね。

ハルカ ありがとう。

アカリ ……こちらこそ。ありがとう。

照れくさそうに微笑む2人。

アカリ じゃあ、もう行くから。

ハルカ 気を付けてね。

アカリ はい。

アカリ、去る。

ハルカ、歩き始める。

植村先生がやってきて、正面を向き、

植村

紺野さんは2学期から登校してきました。時折部活にも顔を出しています。けれど、真実を知った今、彼女の心の行き先は、もう決まっていたのです。

右記の植村のセリフの間でハルカは舞台の階段を下り、客席から舞台を見る。

植村 (ハルカが定位置についたのを確認して) 9月。演劇部は大会に臨みます。

照明・暗CO。すぐに開演ベルが鳴る。ハルカは客席中央寄りの階段に座る。

アナウンス ただいまより、〇〇高等学校演劇部、紺野ハルカ作、『波上の放課後』を、
上演いたします(〇〇の中は自校の名前もしくは架空のものを入れる)。

照明・明CI。

東京へと旅立つハルカを駅で見送るため、
部員6人が駆け込んでくる。

時間ギリギリでホームまで行く余裕がなく、フェンス越しに話す。

アカリ あっ、いた!

藤堂 どこ。

アカリ ほら!

マユ もう電車来るよ。

アカリ ハルカーっ!

客席に手を振る6人。ハルカ、立ち上がり、手を振り返す。

ミキ せんぱーい!

ナナコ 応援してまーす!

楠田 お気を付けてー!

マユ 今度東京遊びに行くからーっ!

アカリ またみんなで舞台立とうね、演劇しようね!

マユ ほら、いいなよ。

藤堂 こ、紺野ーっ! 好きだーっ!

合唱曲『明日へ』の前奏IN。それに被さってアナウンス。

アナウンス 4番線、列車が参ります。黄色い線の内側までお下がりください。

7人全員で歌う。

1番が終わると同時に発車のベルが鳴り響く。

6人、手を振ったり、見つめたり、去るハルカへそれぞれの見送り方をする。
そのまま2番を歌う。

電車に乗ったハルカは、小さな声で歌を口ずさむ。

6人を、愛おしく見つめる。

幕。